

例年より8日遅い梅雨入りとなりました。山城先生からの「イルカと遊ぼう」の心和む表紙ではじまりますが、金城理事から早速「感染症危機管理対策協議会」のご報告をいただきました。ご存知のようにはしか流行が世間をにぎわせています。一つの原因としてワクチン接種による発生減少が、二次性ワクチン効果不全を招き、集団での免疫低下をひきおこすといういわば、自然への介入による揺り返しという側面もあります。ようやく1回接種から2回接種となりましたが、そのくらいではなかなか征服されないのでしょうか。地域医療をになう医師会、疫学者、小児科医が取り組むべきもっとも重要な課題のひとつと考えられます。

玉井理事からは医師会と広報活動に関する会議の、安里常任理事からは生涯教育に関するご報告をいただいています。「総合医」の問題、厚労省のさまざまな診療体制に関する提案等、多くの問題を抱え、さらに週刊文春のm3つぶしなど、医師の意見を述べることも簡単ではなくなりつつあります。今後の広報、生涯教育に

ついて考えるよい機会になればと思います。

4月になり、新研修医が病棟に登場しました。毎年このような記事を読む時、玉井理事も述べているように、医師免許を取得し、医師として病院にはじめて出勤した日を忘れないようにしなければと思います。

當山先生からはピアッシングのさまざまな形成外科的合併症について概説をいただきました。留学している頃とんでもないピアッシングにたびたび遭遇しましたが、ふだん勉強する機会がなく、しかし今後外来等で遭遇する機会は多いことで勉強になりました。小児科、産婦人科と共に外科医を志望するものが減少し、今後難度の高い手術ができる専門医の確保についてかなり厳しい現状があると思います。

県立北部病院の院長に就任された大久保先生のインタビューと、那覇西クリニックの長嶺先生の随筆「ある外科医の憂い」からいろいろなことを考えさせられました。

広報委員 植田 真一郎

